③担い手問題、畜産酪農の強化、総合プロジェクトの推進、６次産業化なども含め、農業の安定経営と、関連産業を守ることを重点に置き、国にしっかりとした対策を求めていく。

地域福祉館の利用

桜井崇裕　議員

地域の福祉館は、コミュニティの中心の場であるとともに地域住民にとっては大切な場所である。地域に学校がなくなり、人口が減少する中、本来の地域活動がなくなり、行事が変わってきている。住民サイドからはもちろんであるが、町からもいろいろなアプローチをかけて、住民を対象とした行事あるいは行政の講習会的なものができないか伺う。

高薄町長

町内会活動もそうだが、助け合いを一つのキーワードにしてきずなを深めることが必要である。地方創生を契機にさまざまな場所で協議を持って考えていきたい。

高齢者等複合施設の必要性

原　紀夫　議員

団塊世代の高齢化が進み、受け皿拡大は待ったなしの状況である。

また、本町の介護施設等は特別養護老人ホームを除き、国民年金受給者や低所得者層にとって料金面で入所しづらいものであり、知恵を絞った対策が必要である。

足寄町と本別町の先進的な施設を視察したが、いずれの施設も医療と介護・保険・福祉の連携システムづくりに向けたものであり、利用料金も低額に抑えられている。本町にもこのような施設の必要性を痛感したが、考えを伺う。

高薄町長

同じように必要性はあると感じており、現在、御影の公営住宅跡地に高齢者向けの住宅を考えている。来年度中に建設計画を進めていきたい。

他の町有地でも公営住宅等を含め、定住対策になるものがあれば考えていきたい。

高齢者向け住宅の建設が予定されている、公営住宅跡地

清水高校卒業生及び30代民間企業経験者の採用

原　紀夫　議員

職員の年齢別構成を見ると、40歳以上の職員（保育士・きずな園職員を除く）が全体の74%を占め、30代が11名と少なく、このまま推移すると20年後には職員の配置が困難になることが予想される。

改善策として、清水高校卒業生及び両親が町内に居住しているが町外に出ている30代の民間企業経験者を広く公募し、採用してはいかがか。

また、町の活性化を図る上からも農商工連携で職員を派遣するなど、町全体を理解する職員を増やす努力が必要と考えるがいかがか。

高薄町長

採用試験では、年齢構成の問題を少しでも解消するため、受験できる年齢の上限を30歳まで広げている。

地元の方を採用したいが、一次試験に合格する方がいない状況にある。

中途採用は技術職でしており、一般総合職についても検討している。

職員の派遣は現在、北海道後期高齢者医療広域連合へ派遣しており、来年度は新たに十勝広域消防事務組合に派遣しなければならない。各省庁からも派遣を求める文書がきており、年齢的なものや職責から、民間への派遣は難しい。

清水赤十字病院の経営改善推進状況

原　紀夫　議員

昨年12月の定例会における清水赤十字病院への補助金交付に対して、病院の内部改革や体質改善を求める声も強かったと考える。

交付から1年を経過する現段階において町は経営改善の進捗をどのように判断しているのか。

医師7名体制の確保、3か年での黒字化等を財政目標としていたが、本定例会では補助金の提案がなく、良好な運営状況に転じているとも考えられる。清水赤十字病院は町立病院に代わる基幹病院であり、心配している町民も多いので現状の考えを伺う。

高薄町長

新しい医師数名の定着で計画を実行に移していたが、上半期の状況では患者が即座に戻る状況にはなっていない。助成措置の申し入れがあったが、1年間の状況を見て判断することにした。

本町の基幹病院であり、これからの地域包括ケアシステムや町民の健康、介護予防を考えると支援は必要である。

今後も経営状況等を確認させていただきながら、病院と協議を重ねていきたい。

地域医療の中心的な役割を果たしている清水赤十字病院